

ラウンド・テーブルについてのご意見

筆者が上京して先輩に誘われて出席したラウンド・テーブル(RT)は通達や打ち合わせなどほとんどなく、ソングやゲームの指導、年齢別部門の技能の習得がほとんどであった。これは隊を運営していく上でとても参考になった。だから、参加者は多かった。

ところが、別のところで経験したRTは地区委員会(各種委員会)とは言わないものの、ほとんどが通達とイベントの打ち合わせに費やされるものだった。成人指導者訓練コースはフォーマル(定形)訓練であり、修了証が伴う。RTはインフォーマル(非定形? 日常的な?)訓練の場である。コミッショナーとお茶を飲みながら指導を受けるのもインフォーマル訓練である。しかし、これには修了証は伴わない。だからか、インフォーマル訓練(そもそも定形外訓練という言葉に問題がある)は軽視されているようだ。

しかし、人はくつろいだ気分の時(インフォーマル)のほうがよく学べるのである。フォーマル訓練の中にインフォーマル訓練があるということはあまり理解されていない。フォーマル訓練の中での入所生の語らいは、情報交換も含めて貴重なインフォーマル訓練の場である。ところが、「日々の進歩」と「班競点」という大命題の下に、キャンプ・サボの改善に追われ、入所生たちが語らう時間はほとんどないのではないだろうか。

全国県コミ集会などに参加すると、どこの県もRTはしっかりやっている、と言われる。だが、各地の現場指導者の話を聞いてみると、実態はほぼ打ち合わせのようだ。残念ながら、実態を本音で語る人は少ない。皮肉な言い方をすれば、互いに建前論で語っていることを共通理解のもとで会話を交わしている。これでは変わらない。